

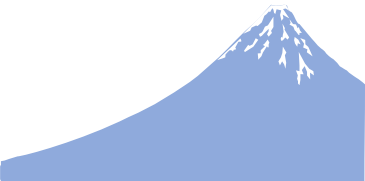
2026年7月 治安情勢

トリニダード・トバゴ及び当館管轄国

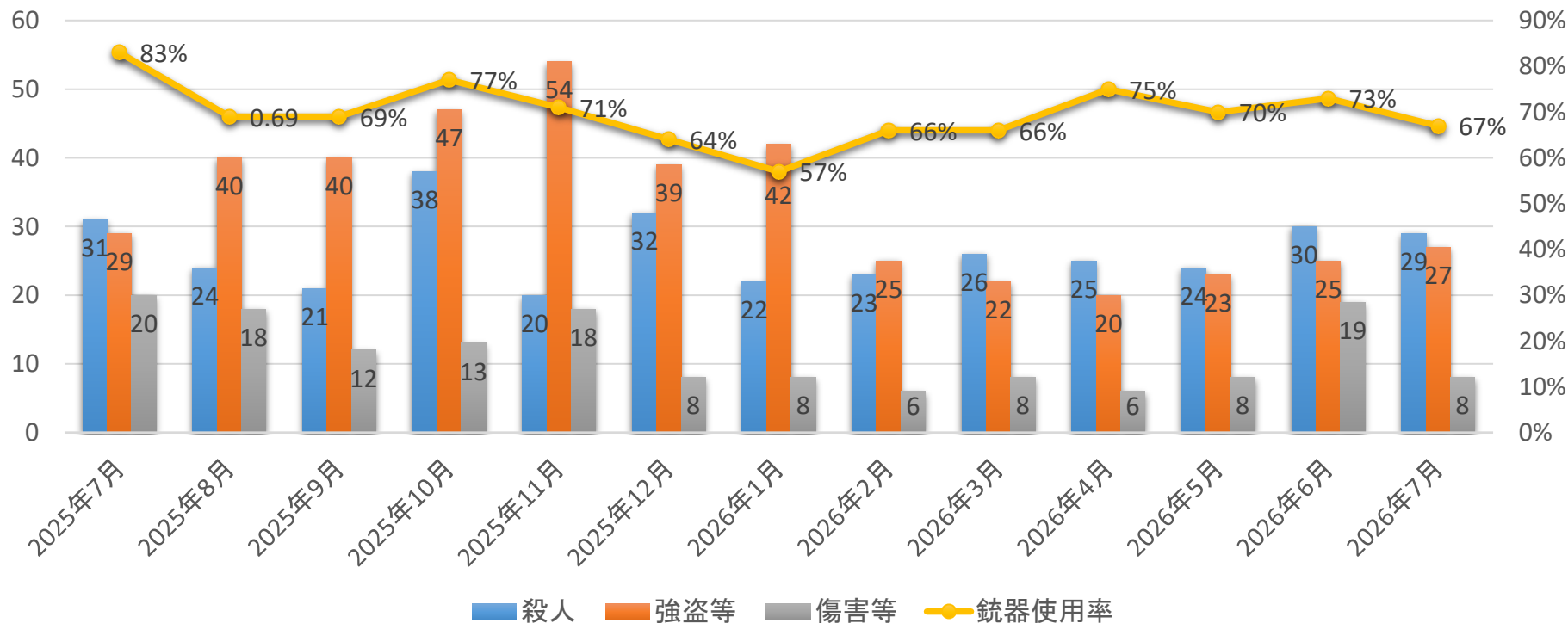
在トリニダード・トバゴ日本国大使館

管轄国別 犯罪発生件数（2026年7月）

	国名	殺人	強盗等	傷害等	誘拐	性犯罪	銃器 使用率
1	トリニダード・トバゴ	29	27	8	4	2	67%
2	ガイアナ	8	4	4	0	0	31%
3	グレナダ	0	0	1	0	0	100%
4	スリナム	1	3	2	0	0	33%
5	セントビンセント	6	0	2	0	0	75%
6	セントルシア	1	0	0	0	0	100%



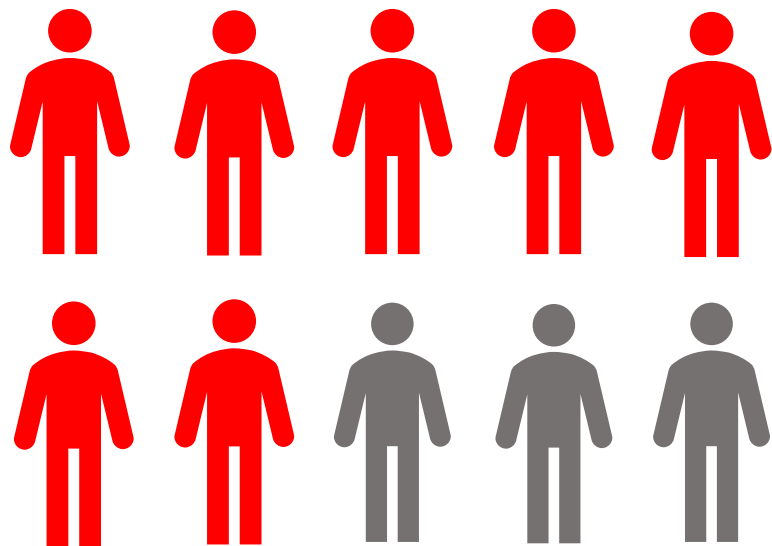
犯罪発生推移（トリニダード・トバゴ）



当月の殺人発生件数は29件と引き続き高水準で推移しています。また、殺人・強盗事案における銃器使用率は67%と極めて高く、銃器を用いた凶悪犯罪が依然として猛威を振るっています。公共の場での発砲リスクも含め、日常的な警戒姿勢の継続が必要です。

些細なトラブルが致命傷へ

極めて高い銃器使用率

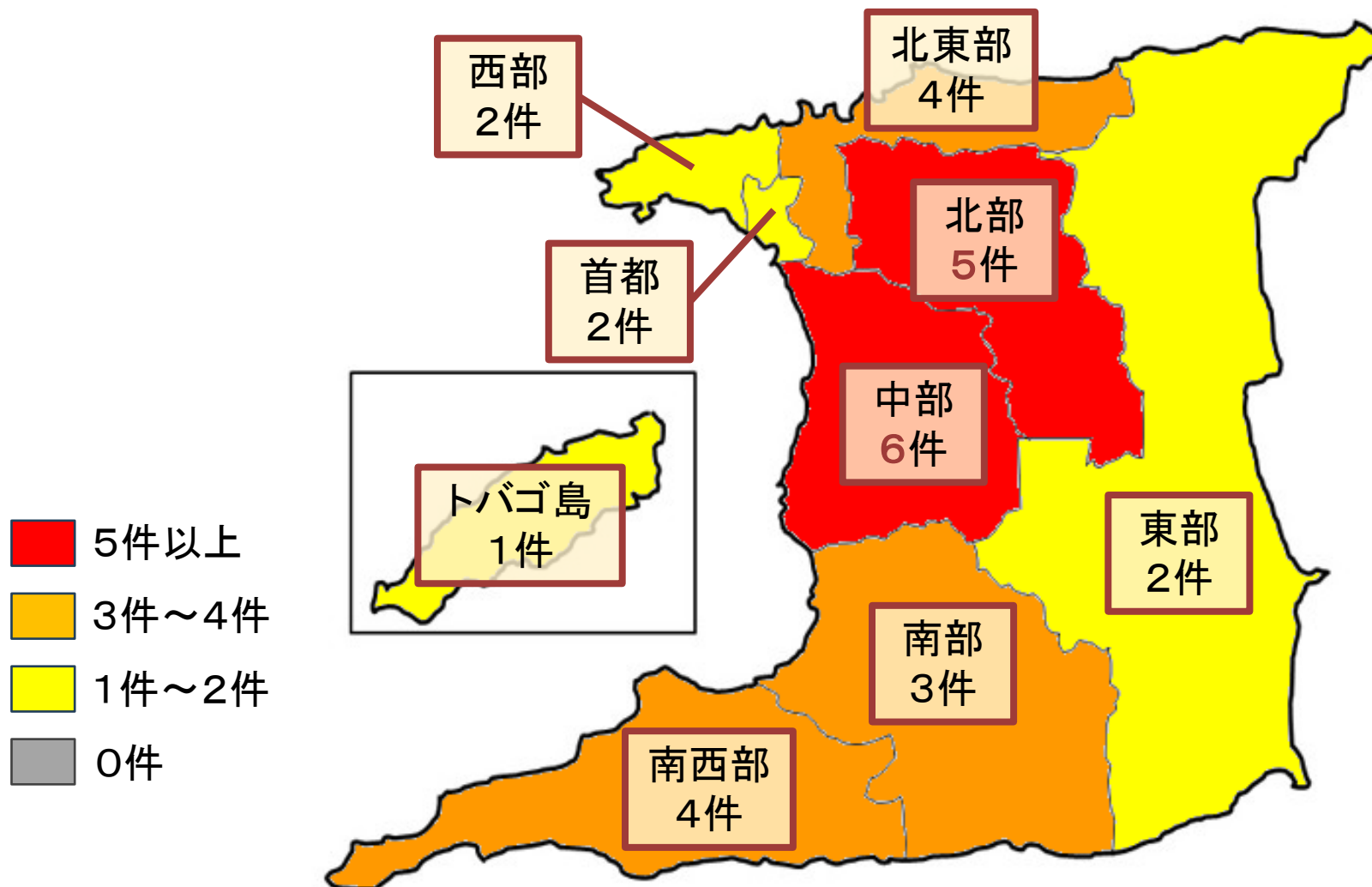


67%

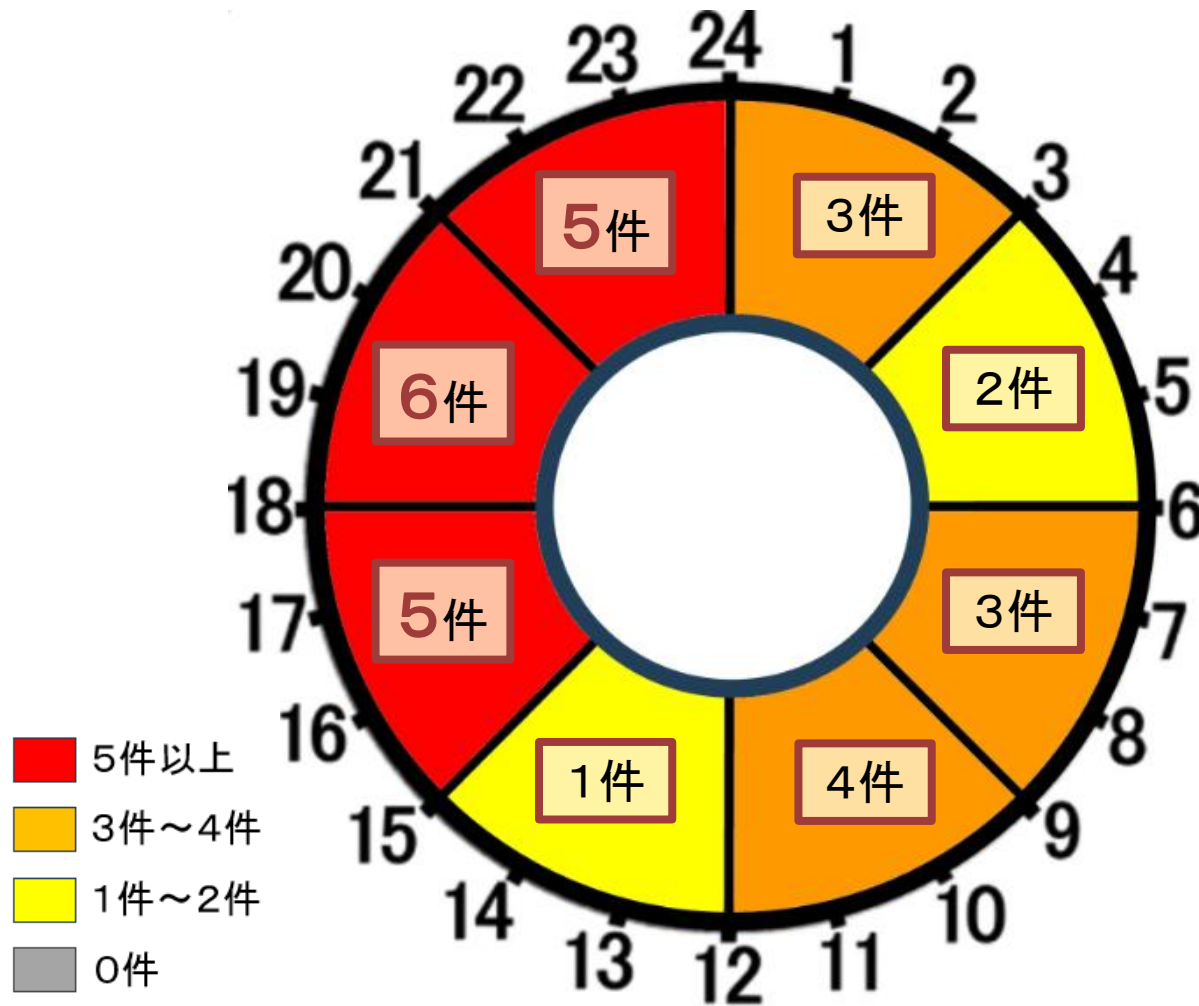
殺人・強盗事案の67%
で銃器が使用されている

公共の場での発砲事案も発生。周囲の状況に対する最大限の警戒が必須。

トリニダード・トバゴ警察方面別 殺人事件発生件数状況（2026年7月）



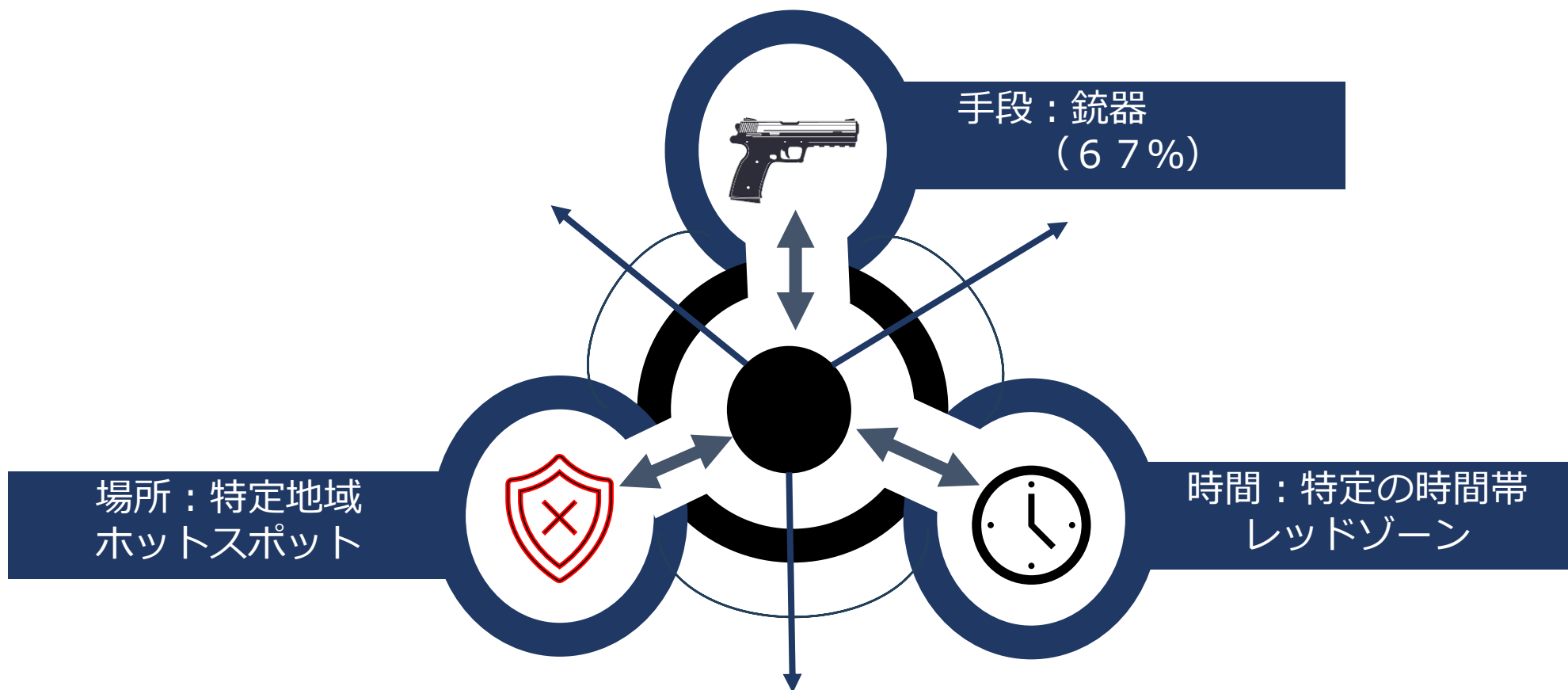
時間帯別殺人事件発生件数（2026年7月）



時間帯別の発生状況を見ると、特に16時から24時にかけての『夕方から深夜帯』に事件全体の過半数が集中しています（16～18時：5件、18～21時：6件、21～24時：5件）。

16時以降の夜間帯における屋外行動や移動は極めてリスクが高いため、日没前の帰宅や不要不急の夜間外出回避を徹底してください。

危険は予測可能である



犯罪の発生には『手段(67%が銃器)』『時間(16～24時の夜間帯)』『場所(中部6件・北部5件などの特定地域)』という明確な傾向・パターンが見られます。危険な『時間・場所・状況』をあらかじめ予知・回避することで、事件に巻き込まれるリスクを大幅に低減させることが可能です。

安全対策の基本的心構え

1	目立たない 犯罪者やテロリストは、標的を選ぶ際にまずは目立つ人物に目を付ける傾向があります。
2	行動を予知されない 行動のパターン化は、犯罪者、テロリストなどに攻撃計画を立てやすくします。
3	用心を怠らない 家族全員、組織全体で気持ちを引き締める機会を定期的に持つことが必要です。

